

従来家康が江戸に移して初めて架いた橋として千住大橋が設けられて以来、南千住は江戸北側の玄関口となりました。松尾芭蕉もここから旅立ち、紀行文「おくのほそ道」を残しました。現在、人口約四万五千人、中央部には、街東西に仕切るように、JR常磐線・東京メトロ日比谷線・首都圏新都市鉄道つくばエクスプレスの高架が設けられ、交通の利便性が確保されています。街の東側では再開発が行われ、スリーパー堤防を中心大きなスケール感のある景色が広がります。一方、街の西側は、回向院やコツ通り（旧日光街道）など、江戸時代を想わせる施設も多く残されています。また、住宅街を抜ける路地や路面電車（都電荒川線）、商店街など、住民の生活と結びついた景色が広がり、「東京の生活」を感じることができます。

# 下町の生活 南千住



**3月3日**  
**土曜日**

# 2018年（平成30年） 南千住班

南千住駅の南側を中心に、南千住には宿泊施設が密集しています。このあたりはかつて山谷と呼ばれ、日光街道に沿った地域として、日雇い労働者のための木賃宿が建ち並んでいました。現在ではゲストハウスなどに姿を変え、南千住の多くのエリアに点在しています。

父通の便の良さも手伝い、南千住は、外国人観光客など多くの旅行者の宿泊地として人気を集めています。



観光地はもう十分！  
「東京の生活を体験したい」

宿泊施設の多い南千住ですが、中国語や韓国語を話すネイティブスピーカーが営む飲食店も多く存在し、旅行者の安心感に繋がっています。

また、日本の伝統的な風景を感じられる素盞雄神社などの歴史的なスポット、桜並木や東京スカイツリーといった景色を見渡すことができる汐入スーパー堤防は散策やランニングコースとしておすすめ。他にも、日本らしい味が楽しめる人気の定食屋チエーン店や地酒が並ぶ店、ドラッグストアやみそ専門店といった様々な土産物を選べる商店街など、旅行者を楽しませる環境が広がっています。都電や路地裏、南千住に住む人のための風景が、そのまま旅行者のための風景になる、南千住は旅行者にとって「東京の生活」を体験できる独特なエリアとして親しまれています。



素盞雄神社



桜並木



汐入スーパー堤防

松尾芭蕉さんは代表作「おくのおそ道」を記した俳人。旅や俳句を通じて、多くの風景にふれました。また、神田上水の改修工事に工事監督として従事したという記録も残っています。景観の専門家でありながら、土木・防災の専門家でもある、さらに南千住にゆかり芭さんに今回もご参加いただき、まちあるきを

